

## シンポジウム「大規模イベントの楽しみはどのように取り戻されてきたか ～2025年大阪・関西万博を見据えて～」開催報告

### 【開催目的】

2023年2月20日にシンポジウム「大規模イベントの楽しみはどのように取り戻されてきたか～2025年大阪・関西万博を見据えて～」をオンライン(Zoom)にて開催した。本シンポジウムは、これまでの大規模集会での感染症対策に関する実践例を共有するとともに、大阪・関西万博の準備に向けて話し合うことを目的に開催された(図1)。

### 【開催状況】

大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)を主催とし、産業技術総合研究所新型コロナウイルス感染リスク計測評価研究ラボ、ナレッジキャピタルを共催、日本リスク学会の協賛と日本財団の助成のもとで開催された。市民、メディア、大規模集会実務者、行政関係者、研究者などを対象としたもので、登壇者以外の参加申し込み者数は159名、当日の合計視聴者数は109名であった。このうち、最も多かったのは会社員(34%)であり、教員・研究者(19%)、公務員等(11%)と続いた(申し込み情報に基づく)。参加費は無料であった。

### 【プログラムの内容】

シンポジウムのプログラムを表1に示す。シンポジウムの司会は岸本充生(大阪大学データビリティフロンティア機構教授・Cider兼任)が務めた。松浦善治(大阪大学感染症総合教育研究拠点拠点長)による開会のあいさつの後、5名の登壇者から取り組みの紹介があった。

入江知子(公益社団法人日本プロサッカーリーグフットボール本部新型コロナウイルス対策部部长)および保高徹生(産業技術総合研究所新型コロナウイルス感染リスク計測評価研究ラボ長)からは、Jリーグの声出し応援再開に向けた取り組みとそこでの計測・感染リスク評価についての紹介があった。

村上道夫(大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授(常勤))からは、東京2020オリンピックパラリンピック選手村における下水疫学の実装についての報告があり、続いて、北島正章(北海道大学大学院工学研究院准教授、大阪大学CiDER連携研究員)から大阪・関西万博開催時における下水疫学の活用に向けた技術実証の現状と展望が紹介された。

朝野和典(大阪健康安全基盤研究所理事長)からは、大阪万博における感染症対策の準備状況—健康危機事態体制をつかさどる大阪健康安全基盤研究所からの対応—との題目で講演があり、特に下水疫学の適用と視座が提示された。

パネルディスカッションでは、村上道夫のファシリテータのもと、小林博幸(塩野義製薬新規事業推進部長)、滝順一(日本経済新聞編集委員)、入江知子、保高徹生、北島正章、朝野和典の6人のパネリストによる議論が行われた。

最初に、小林博幸から塩野義製薬における下水疫学の取り組みの紹介があった後、滝順一から他のパネリスト・発表者への質問があった。その後、視聴者の方々からの事前に寄せられた質問や当日の講演に対する質問への回答を交えながら、討論を行った。Jリーグなどの取り組みによるエビデンスの提示の仕方、観客の動員の状況、国内外での対策の実践の違いといったこれまで

の経験に関する議論があった。さらに、施設単位・下水処理場・航空機排水などの規模に応じた大阪・関西万博での下水疫学の適用可能性や感染症の季節性に着目したモニタリングの重要性について話し合った。その中で、感染の状況が良いか悪いかといったことだけでなく、感染状況がわかるという情報があることそのものへの安心感があるという指摘もあった。大阪関西万博を一つのきっかけに、下水疫学を実装し、国内外の感染症モニタリングとして進めていくことの重要性が言及された。

最後に、野村卓也(一般社団法人ナレッジキャピタル総合プロデューサー・内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 イノベーション推進担当政策参与)と中野貴志(大阪大学核物理研究センター教授;感染症総合教育研究拠点部門長)から閉会のあいさつがあり、シンポジウムを閉じた。

### 【参加者の声】

シンポジウム後のアンケートでは、95%が「大変満足した」または「満足した」と回答した(図2)。具体的な事例や客観的なデータの提示があったことについて高く評価する回答が見られた。さまざまな分野や機関がどのように大規模集会の開催に協力したかがわかった、大規模集会を開く上での参考になった、下水疫学の話に関心を持った、などの声もあった。多様な分野の専門家、大規模集会の実施者、ジャーナリストといった様々な立場と専門性を有する登壇者が、聴取者からの質問も交えて具体的な実践事例とともに将来展望についても議論したことが評価につながったと考えられる。今後もこのようなシンポジウムを開催することで、最新の情報を提供してほしいとの期待の声が寄せられた。

(文責:大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤) 村上道夫)

# シンポジウム 大規模イベントの楽しみは どのように取り戻されてきたか

～ 2025 年大阪・関西万博を見据えて～

**開催日時** 2023年2月20日（月）午前10:00～12:00

**開催方法** Zoom によるオンライン開催（事前申込制） **参加費 無料**  
※人数が上限に達した時点で×切とします。

**申込方法** **申込フォームからのお申込**  
<https://forms.gle/t1n8zFuyHd4kijzd7>  
※申込時のメールアドレスに Zoom の URL が送付されます。  
※申込フォーム（google フォーム）の入力がシステムの関係で難しい場合は、メールにてお問い合わせください。

**趣意・目的** 本シンポジウムでは、Jリーグが行ってきた声出し応援の運営検証（その後の政府による声出し応援の緩和までを含む）、下水疫学に関するオリパラ選手村の実践と大阪・関西万博での適用の展望、大阪・関西万博における感染症対策の準備状況などについて議論します。これまでの大規模集会での感染症対策に関する実践例を共有するとともに、大阪・関西万博の準備に向けて話し合います。

**シンポジウムプログラム** (所属、役職名は 2022 年 11 月時点)

- 10:02～11:02 取り組みの紹介
- 11:02～11:55 パネルディスカッション

**Jリーグの声出し応援再開に向けた取り組みと計画・感染リスク評価**  
保高 徹生 氏  
産業技術総合研究所 新型コロナウイルス感染リスク評価評価研究ラボ長

**Jリーグの声出し応援再開に向けた取り組み**  
入江 知子 氏  
会社役員 日本人プロサッカーリーグ フットボール本部 新型コロナウィルス対策部長

**大阪・関西万博開催時における下水疫学の活用に向けた技術実証の現状と展望**  
北島 正章 氏  
北海道大学大学院工学研究科 准教授  
大阪大学感染症総合教育研究拠点 連携研究員

**大阪万博における感染症対策の準備状況ー健康危機管理体制をつかきとる大阪府健康安全基金研究所からの対応ー**  
朝野 和典 氏  
大阪府健康安全基金研究所 理事長

**東京 2020 オリンピックパラリンピック選手村における下水疫学の実践について**  
村上 達夫 氏  
大阪大学 感染症総合教育研究拠点 特任教授（専攻）

**小林 博幸 氏**  
当野 誠 氏  
当野 誠 氏  
当野 誠 氏

**滝 順一 氏**  
日本経済新聞 編集委員

主催：大阪大学感染症総合教育研究拠点  
共催：産業技術総合研究所新型コロナウイルス感染リスク評価評価研究ラボ、ナレッジキャピタル  
協賛：日本リスク学会  
助成：日本財団  
問い合わせ先：大阪大学感染症総合教育研究拠点 (CIDER) 科学情報・公共政策部門  
MAIL: slpp-et@cider.osaka-u.ac.jp

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

図 1 シンポジウムのリーフレット

表1 シンポジウムのプログラム

時間	話題提供者	内容
司会:岸本充生(大阪大学データビリティフロンティア機構教授・Cider 兼任)		
松浦善治(大阪大学感染症総合教育研究拠点 拠点長・特任教授(常勤))		開会のあいさつ
取り組みの紹介		
入江知子(公益社団法人日本プロサッカーリーグ フットボール本部新型コロナウイルス対策部部長)		Jリーグの声出し応援再開に向けた取り組み
保高徹生(産業技術総合研究所新型コロナウイルス 感染リスク計測評価研究ラボ長)		Jリーグの声出し応援再開に向けた取り組み と計測・感染リスク評価
村上道夫(大阪大学 CiDER 特任教授)		東京 2020 オリンピックパラリンピック選手村 における下水疫学の実装について
北島正章(北海道大学大学院工学研究院准教授、 大阪大学 CiDER 連携研究員)		大阪・関西万博開催時における下水疫学 の活用に向けた技術実証の現状と展望
朝野和典(大阪健康安全基盤研究所理事長)		大阪万博における感染症対策の準備状況 —健康危機事態体制をつかさどる大阪健 康安全基盤研究所からの対応—
パネルディスカッション		
ファシリテータ:村上道夫(大阪大学 CiDER 特任教授)		
パネリスト		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小林博幸(塩野義製薬新規事業推進部長)</li> <li>● 滝順一(日本経済新聞編集委員)</li> <li>● 入江知子(公益社団法人日本プロサッカーリーグフットボール本部新型コロナウイルス対策部部長)</li> <li>● 保高徹生(産業技術総合研究所新型コロナウイルス感染リスク計測評価研究ラボ長)</li> <li>● 北島正章(北海道大学大学院工学研究院准教授、大阪大学 CiDER 連携研究員)</li> <li>● 朝野和典(大阪健康安全基盤研究所理事長)</li> </ul>		
野村卓也(一般社団法人ナレッジキャピタル総合 プロデューサー・内閣府科学技術・イノベーション 推進事務局 イノベーション推進担当政策参与) 中野貴志(大阪大学核物理研究センター教授; 感染症総合教育研究拠点部門長)		閉会のあいさつ



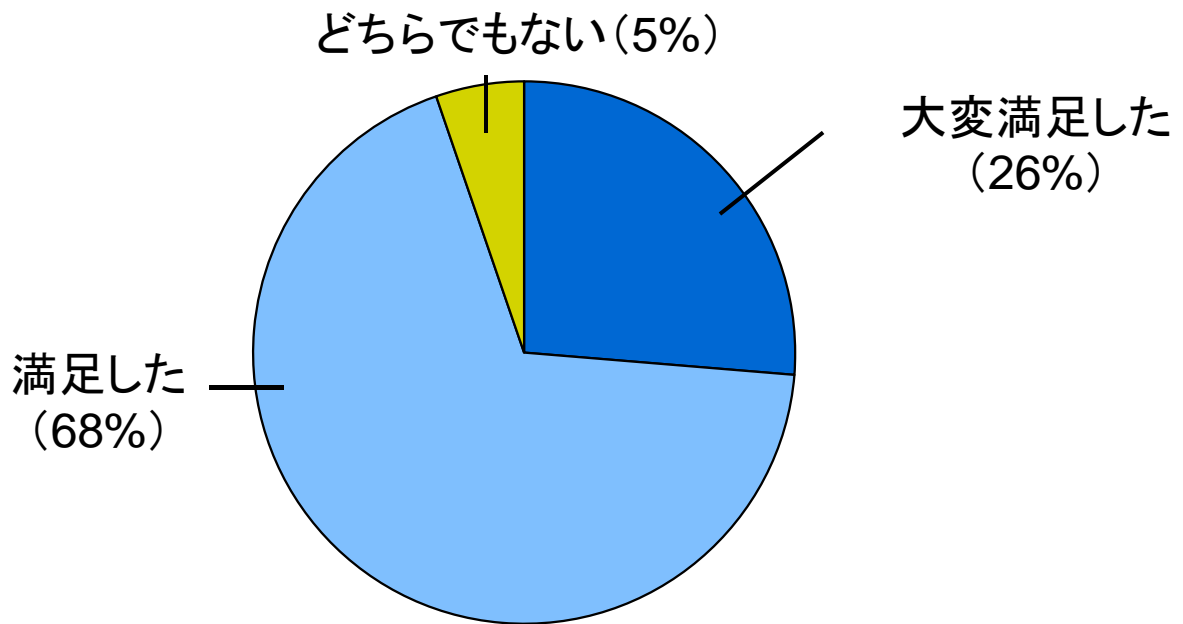


図2 シンポジウムの感想(回答者数:38名)  
注:四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある